

風を感じて

野村 有子

野村皮膚科医院

風は皮膚で感じます。「いい風を感じるお肌になりましょう！」が、開業して以来のキーワードになっています。そのきっかけは、主人が風工学の博士であったことです。竜巻の多いアメリカでヒットした『ツイスター』という映画と一緒に観に行ったことがあります。竜巻を追いかけて研究しながら、その原因を突き止めていくというストーリーです。危険を冒しながら研究する姿に感動し、私たちは「風探偵団」を結成し、「風」がまさに趣味になったのです。自宅に小型の風力発電機を設置し、あちらこちらの風力発電の施設を見学、風のオブジェやアートと出合い、肌に優しい扇風機の開発にも携わりました。多くの専門家や芸術家との出会いが、患者さん対応や臨床研究などさまざまな活動の参考になったことは間違いありません。

趣味が高じて、横浜で医院を建設するときも風を感じるビルにしました。ビルの名前は「チャリオタワー」です。「チャリオ」とは、雨季の前にインド洋に吹く南風のことで、恵みをもたらすという意味もあります。1階は風の散歩道（駐車場）、2階は医療法人そよ風会（野村皮膚科医院の診療スペース）、3階は風の玉手箱（アレルギー対応のモデルルーム）、グリーnbrリーズ（スキンケア製品などの展示販売コーナー）、風の広場（吹き抜きの待合室）があります。そして4階は風のアカデミー（皮膚科のカフェとセミナールーム）、5階は風の館（研修医室）、6階は風のお城（屋上庭園とペントハウス）という構成です。

現在開業して25年が過ぎ、講演や執筆活動が多くなり、風を追いかける時間はほとんどありません。でも、趣味と実益を兼ねたチャリオタワーで日々診療に取り組むことが、いまの私の幸せの1つになっているようです。幼少期から、親が転勤族のため一つの土地にとどまらず、「いつも風のように来て風のように去っていくね！」といわれ続けていました。やっと横浜に根づいて、地元の医師会や商店街の方々と懇意になり、落ち着いた風を感じられるようになったかなあ〜と、思いたいところですが、医院内は、多くのスタッ



フや患者さんで、常に嵐のような風が舞っています。いつになったら、落ち着けるやら！？でも、嵐があるからこそ、嫌なものは一掃されて、新たな平和な状況が生まれるのだと思います。

ちなみに、「風速」とは10分間平均風速のことをいいます。また、風速計の測定値を3秒間で平均した値（＝測定値12個の平均値）を「瞬間風速」といいます。瞬間風速は、風速の1.5倍くらいですが、大気が不安定なときには風速の3倍以上になることもありますので注意が必要です。皮膚が感じるのは風速2～3 m/s程度で、葉っぱや小枝が揺れるくらいの風です。風速5 m/sを超えると砂ぼこりが立ち落ち葉が宙を舞い、風速10 m/sで樹木全体や電線が揺れ始めます。風速20 m/s超えは、陸上での暴風警報の発表基準で、看板が落下・飛散したり、道路標識が傾くこともあり、まともに歩くことはできません。近年、風水害がとて増えています。私が横浜市神奈川区医師会で「災害対策委員会」の委員長を仰せつかったのも、偶然ではないようですね。

私のワークライフバランスを改めて見直してみると、アンバランスだらけのような気がしてしまいます。でも「風」という1つのキーワードがバランスを支えてくれています。これからも、医師として人として、いい風を感じることができるよう願ってやみません。